# 4. 石西礁湖自然再生全体構想の概要

## 石西礁湖自然再生の目標

石西礁湖自然再生全体構想では、長期目標(達成期間30年:2037年)と短期目標(達成期間10年:2017年) を次のとおり定めました。

## 【長期目標】

人と自然の健全な関わりを実現し、 1972年の国立公園指定当時の豊かな サンゴ礁の姿を取り戻す。

## 【短期目標】

サンゴ礁生態系の回復のきざしが見られるようにする、そのために環境負荷を積極的に軽減する。

このうち、長期目標は、「誰もがイメージしやすい、共有したい自然の姿」を示しています。石西礁湖の写真など、1972年当時の様子を知ることができる資料や情報は多くは残っていませんが、サンゴのない場所を探す方が大変であったという話を聞きます。

長期目標のイメージを描いてみると、下のイメージ図のような感じでしょうか。

# 未来の石西礁湖のイメージ

山と森と海と人々がつながり、岸近くにもサンゴが育まれている。すきとおった海のなかを、クジラブッダイが群れ泳ぎ、ギーラが湧き、サンゴのお花畑が咲き誇っている。イノーはモズクとアーサ採りのオバーで賑わい、サバニの上のオジーは今日も笑顔で帰ってきた。夏の日差しに、水しぶきをあげては、水のでスピオなたの食い焼が味し、



※石西礁湖自然再生マスタープランより

## 石西礁湖自然再生の原則

石西礁湖における自然再生では、マングローブ林、藻場、干潟を含むサンゴ礁域の自然再生を目指し、サンゴ 群集の修復だけではなく、サンゴ礁域に関連する生態系についても、必要な取り組みを進めています。

そして、サンゴ礁生態系の劣化をもたらしている環境負荷を積極的に軽減することはもちろん、自然が持つ 回復力を活かし、それを手助けする形で必要な取り組みを実施することを基本としています。

# 自然再生の原則

- 1 統合的アプローチ
- 2 自然の再生力の利用
- 3 科学的認識
- 4 予防原則
- 5 地域産業と自然再生の両立
- 6 明確な目標設定

- 7 順応的管理
- 8 継続的・実行可能な取組の実施
- 9 多様な主体の参加による連携・協働
- 情報公開
- 11 環境教育
- 12 国際的認識

## 展開すべき取組

石西礁湖自然再生の目標を達成するために展開すべき取り組みは、大きく6つあります。

#### ①攪乱要因の除去

サンゴ礁生態系は、人為的活動やそれに関連する現象によって大きな影響を受けています。オニヒトデ対策、赤土流出防止対策など撹乱要因を除去するための取り組みを実施します。

#### ②良好な環境創成

衰退したサンゴ礁生態系を回復するためには、攪乱要因の除去による効果が出るのを 待つだけでなく、積極的に良好な環境を創り出していくことも必要です。サンゴ礁・沿岸 域の生態系の再生や環境に配慮した海域における構造物の整備を行います。

#### ③持続可能な利用

石西礁湖では、漁業、観光業、海上交通など様々な地域活動が営まれています。石西礁湖の保全・再生の主体は地域に住む人々であり、生活や産業の維持・活性化と自然再生の両立を目指す必要があり、適切な利用の推進や、保護区などの指定を検討します。

#### ④意識の向上・広報啓発

サンゴ礁生態系の保全の関係者は多岐にわたることから、関係者の意識向上・広報 啓発を進めます。

### ⑤調査研究・モニタリング

サンゴ礁生態系の状況や変化を把握するため、調査研究やモニタリング、効果的な取り 組み手法などに関する調査研究を進めます。

#### ⑥活動の継続

目標を達成するためには、以上のような取り組みを継続して行う必要があります。そこで、民間による活動の推進・支援や取り組みに関する広報などを通じ地域の内外の多くの協力者・理解者を得て自然再生を継続的に推進します。